

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2010年9月30日から2020年9月25日まで	
運用方針	<p>①アフリカの成長によって恩恵を受ける企業の株式(アフリカ関連株式)等を実質的な投資対象とし、信託財産の中長期的成長を目指します。</p> <p>②年2回決算を行い、収益分配方針に基づき収益の分配を行います。</p>	
主要投資対象	パン・アフリカ株式ファンド	「マルチストラテジーズファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド」および「損保ジャパン日本債券マザーファンド」
	マルチストラテジーズファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド	アフリカに本拠を置く企業、または、アフリカでビジネスを拡大していくことが期待される企業の株式
	損保ジャパン日本債券マザーファンド	日本の公社債
主な組入制限	パン・アフリカ株式ファンド	<p>①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。</p> <p>②株式及び外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。</p> <p>③デリバティブの直接利用は行いません。</p> <p>④株式への直接投資は行いません。</p> <p>⑤同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。</p>
	マルチストラテジーズファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド	<p>①純資産総額の10%を超えて借入れを行いません。</p> <p>②デリバティブの利用は、ヘッジ目的に限定しません。</p>
	損保ジャパン日本債券マザーファンド	<p>①株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以内とします。</p> <p>②外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</p>
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子、配当収入と売買益(評価損益を含みます。)等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p>	

パン・アフリカ 株式ファンド

最終期 (償還日 2020年9月25日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「パン・アフリカ株式ファンド」は、2020年9月25日をもちまして満期償還いたしました。ここに謹んで設定以来の運用状況と償還の内容をご報告申し上げます。今後とも当社商品につき引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。



SOMPOアセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル



<https://www.sompo-am.co.jp/>

お問い合わせ先



クライアントサービス第二部 0120-69-5432

(受付時間 営業日の午前9時～午後5時)

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配額)	標準価額			債組入比率	券率	投資信託証券組入比率	純資産額
		税金	達配	み騰落				
	円 銭	円		%		%	百万円	
16期(2018年9月25日)	8,646	0		△14.8	1.0	94.6	2,251	
17期(2019年3月25日)	8,373	0		△3.2	1.0	95.2	2,167	
18期(2019年9月25日)	7,947	0		△5.1	0.9	95.1	2,083	
19期(2020年3月25日)	5,937	0		△25.3	1.0	95.1	1,510	
(償還時)	(償還価額)							
20期(2020年9月25日)	6,400.80	—		7.8	—	—	1,201	

- (注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。
(注2) 基準価額及び分配金は1万口当たり(以下同じ)。
(注3) 債券組入比率は損保ジャパン日本債券マザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。
(注4) 投資信託証券組入比率はマルチストラテジーズファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンドの組入比率。
(注5) 当ファンドは、マルチストラテジーズファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、本投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

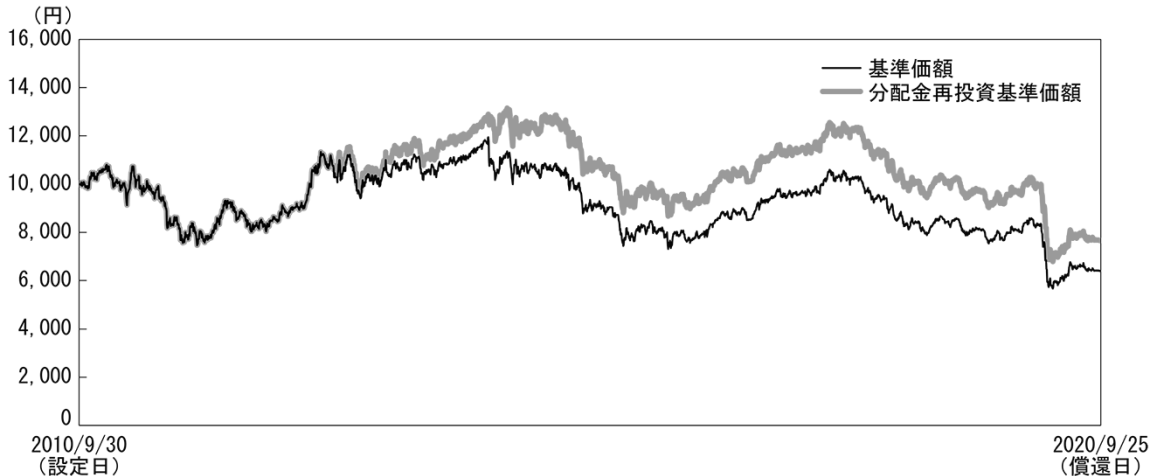
○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		債組入比率	券率	投資信託証券組入比率
		騰落	率			
(期首)	円 銭		%		%	%
2020年3月25日	5,937		—	1.0	95.1	
3月末	5,798		△2.3	1.0	95.1	
4月末	5,975		0.6	0.9	95.0	
5月末	6,274		5.7	0.9	95.5	
6月末	6,482		9.2	1.0	95.1	
7月末	6,502		9.5	1.0	95.8	
8月末	6,416		8.1	1.0	95.3	
(償還時)	(償還価額)					
2020年9月25日	6,400.80		7.8	—	—	

- (注1) 騰落率は期首比。
(注2) 債券組入比率は損保ジャパン日本債券マザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。
(注3) 投資信託証券組入比率はマルチストラテジーズファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンドの組入比率。
(注4) 当ファンドは、マルチストラテジーズファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、本投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

設定以来の運用経過（2010年9月30日（設定日）～2020年9月25日（償還日））

■基準価額の推移



設定日：10,000円

償還日：6,400円80銭（期中分配金合計1,950円）

騰落率：△23.4%（分配金再投資基準価額ベース）

- ・分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- ・当ファンドは、「マルチストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド」への投資比率を可能な限り高位に保ちますが、本投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

■基準価額の主な変動要因

主要投資対象である「マルチストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド」の基準価額が下落したことから、分配金再投資基準価額は下落しました。

主要投資対象である「マルチストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド」においては、世界的に株式市場が上昇基調で推移する中、南アフリカやエジプトなどアフリカ株式市場が総じて上昇したことなどからプラス寄与となりました。一方、エジプト・ポンド、ナイジェリア・ナイラ、南アフリカ・ランドなどアフリカ通貨は対円で総じて下落したことから、為替はマイナス寄与となりました。

■投資環境

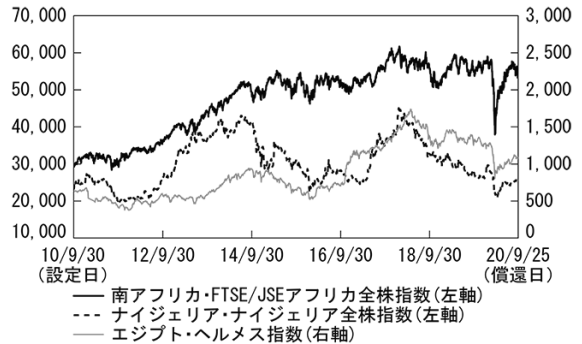
○アフリカ株式市場

2012年から2013年にかけて、世界的に緩和的な金融政策が維持され、リスク資産を選好する動きが強くなったことなどが追い風となり、アフリカ株式市場は総じて上昇しました。しかし2015年には、新興国株式を含むリスク資産に対する投資家心理が冷え込んだことなどが材料となって下落しました。2016年にはエジプト・ポンドが変動相場制に移行したことなどを好感し、エジプト株式市場が大幅に上昇するなどした後、2017年には世界的に株式市場が堅調に推移する中、アフリカ株式市場も総じて上昇しました。2018年から2019年にかけては、米中貿易摩擦問題などを背景にリスク回避的な市場環境となったことが下落要因になる一方、2019年後半以降は米国で利下げが実施され、商品市況が堅調に推移したことなどが上昇要因になるなどした結果、アフリカ株式市場はまちまちの展開となりました。その後2020年3月以降、新型コロナウイルスの感染問題を材料に世界的に株式市場が下落する展開となり、アフリカ株式市場も下落しました。

○為替市場

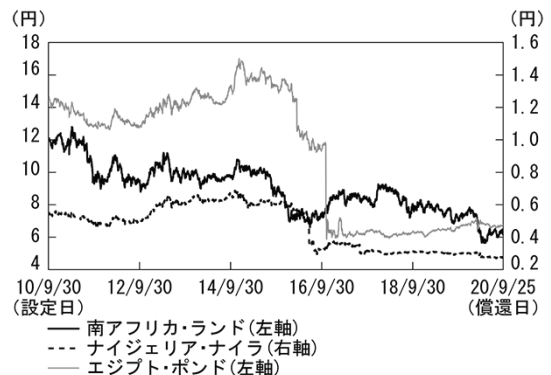
為替市場では、2012年末から2013年前半にかけて、日銀が積極的な金融緩和政策にシフトしたことなどをを受けて円安が進展し、アフリカ通貨が堅調に推移した局面がありました。その後、エジプトでは2016年に変動相場性に移行した際に、エジプト・ポンドが大幅に下落したことなどから、対円でも下落しました。また、ナイジェリア・ナイラは、2016年に変動相場性に移行した際に大幅に下落したことに加え、2020年3月には世界的にリスク回避的な市場環境になる中、ナイジェリア・ナイラへの売り圧力が高まったことから通貨切り下げが実施され、対円で大幅に下落しました。

主要株式指数の推移



(出所：Bloomberg)

主要為替レートの推移



(出所：Bloombergおよび投資信託協会)

(注) 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドは、「マルチ ストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド」および「損保ジャパン日本債券マザーファンド」を主要投資対象とし、信託財産の中長期的成長を目指して運用を行いました。

マルチ ストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンドへの投資比率については高位に保ちました。その後、満期償還に向けてキャッシュ化を進め、2020年9月中旬に全部売却しました。

(マルチ ストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド)

主として、南アフリカ、エジプト、ナイジェリア、モロッコ、ケニア等に幅広く分散投資を行いました。アフリカ各国の株式市場分析や個別銘柄分析に加えて、為替市場の流動性なども考慮しながらポートフォリオ運営を行いました。

ファンドでは、2020年9月25日の償還に向けた準備の為、8月末には保有銘柄の全売却を行いました。

(損保ジャパン日本債券マザーファンド)

投資方針に沿ったポートフォリオの構築を行い、債券の組入比率を高位に維持しました。デュレーション・イールドカーブ戦略については、市場環境に応じて戦略を機動的に変更しました。債券種別戦略は、設定来より非国債をオーバーウェイトする戦略を取りました。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、マルチ ストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンドの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、本投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

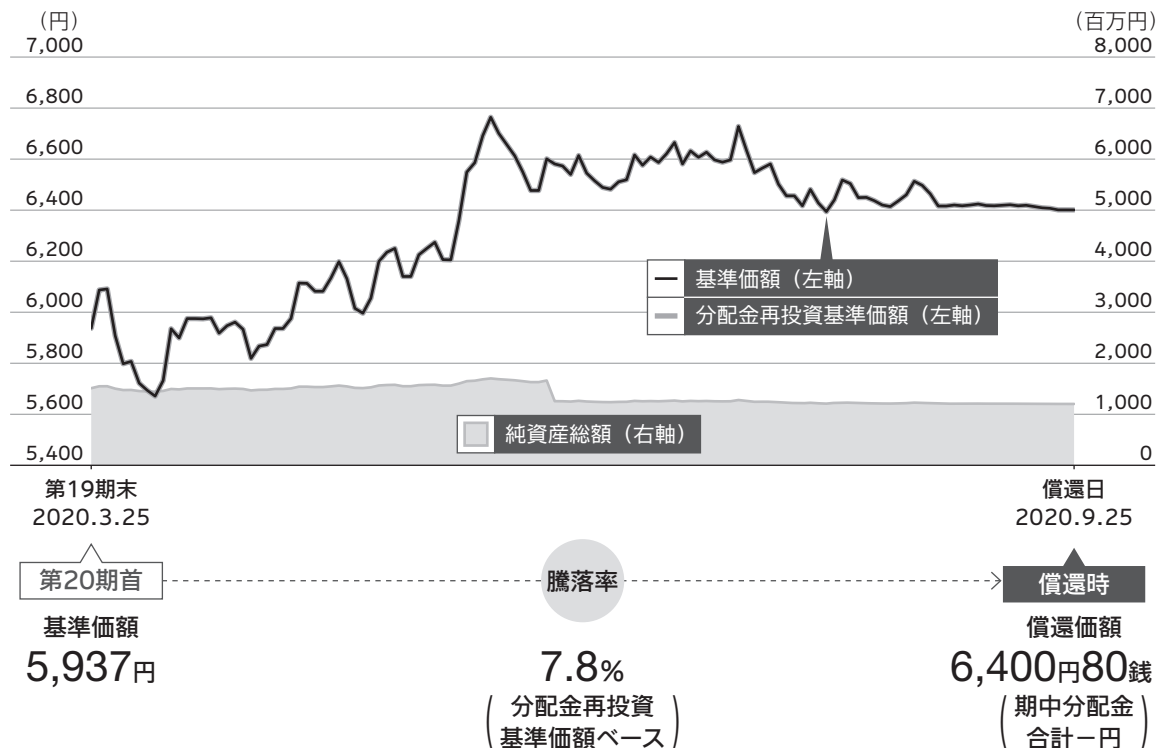
■分配金

収益分配金については、基準価額水準等を勘案し、第1期～第4期は各0円（1万口当たり、以下同じ。）、第5期～第6期は各300円、第7期は200円、第8期は800円、第9期は250円、第10期～第14期は各0円、第15期は100円、第16期～第19期は各0円の合計1,950円の分配を行いました。

最終期の運用経過（2020年3月26日～2020年9月25日（償還日））

運用経過

● 基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額の推移は、2020年3月25日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、マルチ ストラテジーズ ファンドー U B P アフリカン・エクイティ・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、本投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 基準価額の主な変動要因

パン・アフリカ株式ファンド

主要投資対象である「マルチ ストラテジーズ ファンドー U B P アフリカン・エクイティ・ファンド」の基準価額が上昇したことから、基準価額は上昇しました。

主要投資対象である「マルチ ストラテジーズ ファンドー U B P アフリカン・エクイティ・ファンド」においては、新型コロナウイルスの感染問題を背景に景気見通しが悪化したものの、世界的に金融及び財政の両面から政策対応が実施されたことや、都市封鎖策などが徐々に緩和され経済活動が再開されたことなどを好感してアフリカ株式市場が総じて上昇した結果、プラス寄与となりました。なお、ケニア・シリングやナイジェリア・ナイラなどアフリカ通貨は対円で総じて下落したことから、為替はマイナス寄与となりました。

- 本報告書では、ベビーファンド、マザーファンド及びマザーファンド以外のファンドを下記の様に統一して表記しています。

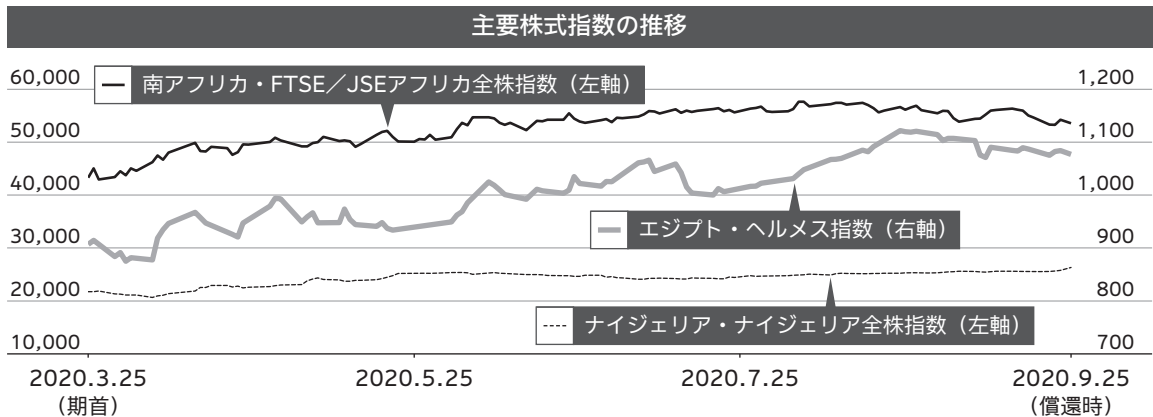
 ベビーファンド  マザーファンド  マザーファンド以外のファンド

● 投資環境

○アフリカ株式市場

新型コロナウイルス感染問題を受けて、2020年3月中旬に大幅に下落したアフリカ株式市場は、世界的に経済活動が再開に向かう中、当期においては総じて上昇しました。南アフリカでは政策金利の引き下げが実施されたことや都市封鎖策などが緩和されたこと、エジプトではIMF（国際通貨基金）による融資が承認されたことなどから上昇しました。また、ナイジェリアでは、同国最大の輸出品目である原油価格が上昇したことなどが追い風となり上昇しました。モロッコでは、2020年4月に干ばつの深刻化が下落要因となったものの、6月には政策金利の引き下げが行われたことなどにより上昇しました。

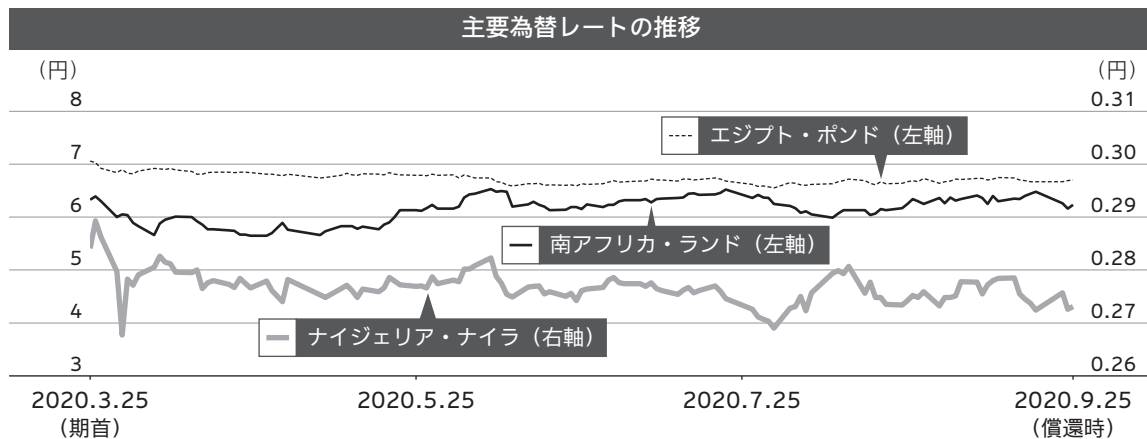
一方、ケニアでは、通貨シリングが対ドルで史上最安値まで下落したことや、7月に新型コロナウイルスの感染拡大を受けて夜間外出禁止令などが再延長されたことから下落しました。



(出所：Bloomberg)

○為替市場

ケニアでは経済活動が徐々に再開される中、輸入業者によるドル買い需要が高まったことなどを受けて、ケニア・シリングが対ドルで一時史上最安値まで下落するなどしたことから、対円でも下落しました。また、資源国通貨であるナイジェリア・ナイラは、市場環境がリスク回避的となった2020年3月に原油価格が急落した影響などから対円で下落しました。



(出所：Bloomberg および投資信託協会)

注. 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

● 当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドは、「マルチ ストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド」および「損保ジャパン日本債券マザーファンド」を主要投資対象とし、信託財産の中長期的成長を目指して運用を行いました。

マルチ ストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンドへの投資比率については期を通じて高位に保ちました。その後、満期償還に向けてキャッシュ化を進め、2020年9月中旬に全部売却しました。

マルチ ストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンド

主として、南アフリカ、エジプト、ナイジェリア、モロッコ、ケニア等に幅広く分散投資を行いました。なお、ナイジェリアについては市場流動性の悪化に対する懸念が高まったこと考慮し、2020年4月から6月にかけて段階的に売却しました。その他個別銘柄では、投資持株会社レムグロ（南アフリカ）等を購入した一方、ケニア発電公社（ケニア）等を売却しました。

ファンドでは、2020年9月25日の償還に向けた準備の為、8月末には保有銘柄の全売却を行いました。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

金利戦略は定量分析に基づき、年限間の相対的割安度を基にした残存期間戦略を基本とし、デュレーションについては、市場環境に応じて機動的に変更しました。

債券種別戦略は、非国債のオーバーウェイトを継続しました。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、マルチ ストラテジーズ ファンドーUBPアフリカン・エクイティ・ファンドの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、本投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 分配金

該当事項はありません。

決算期におけるファンドの運用成果[※]をもとに、分配を行うことを目指すファンドです。

※ 運用成果には、インカム収入とキャピタルゲイン・ロスの両方を考慮します。

インカム収入とは株式の配当収入等、キャピタルゲイン・ロスとは値上がり益・値下がり損をいいます。

・ ファンドに蓄積された過去の運用成果（分配原資）を加味する場合があります。

<償還を迎えて>

当ファンドは、2020年9月25日をもちまして信託期間を終了し、満期償還とさせていただくこととなりました。受益者の皆様のご愛顧に心より御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

● 1万口当たりの費用明細

項目	最終期 2020.3.26~2020.9.25		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	34円	0.549%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 (年率) × $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は6,241円です。
(投信会社)	(12)	(0.194)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(21)	(0.333)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(1)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.000	(b) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(監査費用)	(-)	(-)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	34	0.549	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

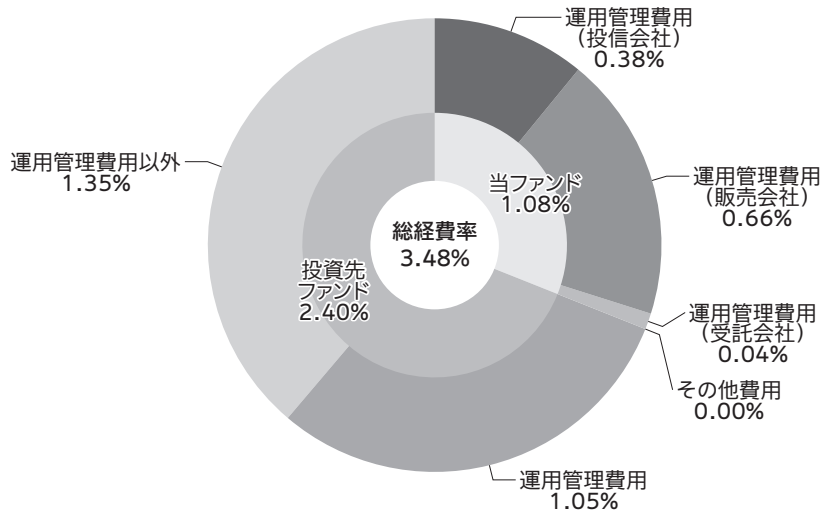
注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

注4. 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は3.48%**です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	3.48
①当ファンドの費用の比率	1.08
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	1.05
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	1.35

注1. 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2. 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3. 各比率は、年率換算した値です。

注4. 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

注5. 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

注6. 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

注7. 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年3月26日～2020年9月25日)

投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	Multi Strategies Fund - UBP African Equity Fund	口 -	千円 -	口 217,649	千円 1,571,792

(注1) 金額は受渡代金。
(注2) 単位未満は切捨て。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄		設定		解約	
		口数	金額	口数	金額
	損保ジャパン日本債券マザーファンド	千口 1,476	千円 2,140	千口 11,880	千円 17,234

(注1) 単位未満は切捨て。
(注2) 金額は受渡代金。

○利害関係人との取引状況等

(2020年3月26日～2020年9月25日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2020年9月25日現在)

2020年9月25日現在、有価証券等の組入れはございません。

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘柄		期首(前期末)	
		口数	金額
	Multi Strategies Fund - UBP African Equity Fund	口 217,649	千円 1,571,792
合 計		口 217,649	千円 1,571,792

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	
		口	数
損保ジャパン日本債券マザーファンド			千口 10,403

(注) 単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2020年9月25日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コール・ローン等、その他	千円 1,209,948	% 100.0
投資信託財産総額	1,209,948	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2020年9月25日現在)

項 目	償 還 時 円
(A) 資産	1,209,948,068
コール・ローン等	1,209,948,068
(B) 負債	7,977,663
未払解約金	363,798
未払信託報酬	7,604,618
未払利息	9,247
(C) 純資産総額(A-B)	1,201,970,405
元本	1,877,842,748
償還差損金	△ 675,872,343
(D) 受益権総口数	1,877,842,748口
1万口当たり償還価額(C/D)	6,400円80銭

(注1) 信託財産に係る期首元本額2,544,117,255円、期中追加設定元本額21,944,529円、期中一部解約元本額688,219,036円

(注2) 償還時における1口当たりの純資産総額 0.640080円

(注3) 償還時における元本の欠損金額 675,872,343円

○損益の状況

(2020年3月26日～2020年9月25日)

項 目	当 期 円
(A) 配当等収益	△ 51,142
支払利息	△ 51,142
(B) 有価証券売買損益	93,293,598
売買益	134,855,178
売買損	△ 41,561,580
(C) 信託報酬等	△ 7,610,138
(D) 当期損益金(A+B+C)	85,632,318
(E) 前期繰越損益金	△555,043,347
(F) 追加信託差損益金	△206,461,314
(配当等相当額)	(87,301,933)
(売買損益相当額)	(△293,763,247)
償還差損金(D+E+F)	△675,872,343

(注1) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2010年9月30日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2020年9月25日			資産総額	1,209,948,068円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	7,977,663円	
				純資産総額	1,201,970,405円	
受益権口数	834,454,882口	1,877,842,748口	1,043,387,866口	受益権口数	1,877,842,748口	
元本額	834,454,882円	1,877,842,748円	1,043,387,866円	1万口当たり償還金	6,400円80銭	
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金		
				金額	分配率	
第1期	19,714,898,242円	19,168,650,649円	9,723円	0円	0.0%	
第2期	10,709,116,994	8,223,432,143	7,679	0	0.0	
第3期	5,270,463,244	4,774,547,208	9,059	0	0.0	
第4期	3,498,354,937	3,134,034,082	8,959	0	0.0	
第5期	2,610,448,106	2,688,672,424	10,300	300	3.0	
第6期	2,462,969,183	2,586,459,254	10,501	300	3.0	
第7期	1,704,780,895	1,754,205,183	10,290	200	2.0	
第8期	1,220,531,531	1,342,638,475	11,000	800	8.0	
第9期	1,132,134,546	1,174,317,226	10,373	250	2.5	
第10期	1,015,753,867	914,834,747	9,006	0	0.0	
第11期	839,278,275	688,107,383	8,199	0	0.0	
第12期	2,620,901,460	2,035,025,709	7,765	0	0.0	
第13期	2,626,077,223	2,344,854,257	8,929	0	0.0	
第14期	2,604,577,566	2,522,333,885	9,684	0	0.0	
第15期	2,571,084,987	2,608,164,105	10,144	100	1.0	
第16期	2,603,703,521	2,251,197,187	8,646	0	0.0	
第17期	2,588,396,236	2,167,250,840	8,373	0	0.0	
第18期	2,622,237,178	2,083,890,931	7,947	0	0.0	
第19期	2,544,117,255	1,510,547,372	5,937	0	0.0	

○償還金のお知らせ

1万口当たり償還金（税込み）	6,400円80銭
----------------	-----------

○お知らせ

- ・2020年4月1日の委託者の名称等変更に伴い、委託者名および電子公告の掲載アドレスが変更となるため、信託約款に所要の変更を行いました（2020年4月1日）。